

鶴瀬西交流センター 開設20周年！

☆富士見市☆
マスコットキャラクター
ふかひー

～ 今月の特集 ～
神社・仏閣めぐりは
いかがですか

つるせ西だより

第208号(12月号)2025.12.1

編集：鶴瀬西交流センターだより編集委員会

発行：富士見市立 鶴瀬西交流センター

〒354-0021 富士見市大字鶴馬 3575-1 TEL:049-251-2791 FAX:049-255-9707

地域の百景 78

綿の実はいけて

夕暮れ時、散歩をしていると、ぱっと丸い白いものが目に留まりました。西中学校の門の中の綿の実でした。お邪魔して写真をとらせてもらいました。

なぜ学校で綿が栽培されているのか、これからどのように活用されるのだろうかと気になりました。のちに校長先生にお会いしたときにお聞きしましたが、量も少ないので、特に活用は考えていないというようでした。

でも、生徒たちはこの綿の実から、どこで綿が多く作られ、どんな過程を経て綿製品がつくられているのか、自分の身近にどんな製品があるのか、いっぱい想像してくれることでしょう。

(撮影・文/西角)



水と人の生活

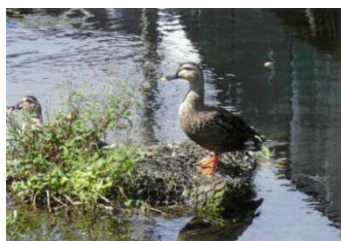
まちかどウォッチング

鶴馬地域は、武蔵野台地縁辺にありかつ小河川に削られた斜面が多いため、多くの湧水があります。一説には、水流(つる)が鶴に転じたとか。

江川が流れる関沢のハケ(はけ)上を訪れました。ハケとは湧き水の意だそうです。東上線沿いの急坂を下ったガード辺り(写真中央)にかつて水場があり縄文草創期から人が住んでいたとのこと。

獣の処理や洗い物に使える川も併せれば、上下水道完備の好立地。ここから出土した土器や石器、なかでも耳飾りや装飾品を見ると古代の人々が水とともに豊かな生活を営んでいたことが偲ばれます。戦中まで水車が稼働していたことから、連綿と続く水と人との関わりが伺えます。江川では今も護岸や川底から水が湧いており、澄んだ水の流れを見ることができます。

(出井)



東上線沿いの急坂